

認知症対応型 デイサービス



庭仕事も
まかせて

山波の家

地域に開かれた場所に 山波の家 山田 佳代
山波の家では地域のサロン開催のための場所を提供しています。

山波の家でサロンを開催する事で多くの変化が見られました。まず、地域の方に山波の家の活動を深く理解してもらい、外出行事の際もボランティアとして同行して頂けるようになりました。また、「尾道あるこうカー」にも参加して頂き、日常的に交流する関係となりました。こうして山波の家は、開かれた地域交流の場となり、地域の一員となっています。

ボランティアさんと
福山園芸センターにばり見学



久保の家

久保の家は「第二の家」

久保の家 新谷 愛
認知症の方は「環境の変化」にとても敏感です。そのため、その人の今までの習慣や生活リズムに合わせた環境を作り出すことで認知症の方の不安は減っていきます。中庭を見ながらタバコを吸う方、庭の剪定をする方、職員と二人で外に出かけて行く方、その全てがその人の習慣や思いに合わせた時間です。久保の家は民家を改修しており、襖や畳など昔ながらの温かい雰囲気があります。「第二の家」と呼ばれる久保の家にぜひ遊びに来てください。

今津野の家

コンセプトムービーを作成

今津野の家 谷 頼誕
認知症デイサービスを広く知って頂くために、約3分間の紹介動画を作成しました。認知症になったら何もできなくなり、すべてを忘れてしまう訳ではありません。適切な環境と専門的な関わりによって、利用者さんの表情も豊かになります。動画には認知症の方本人の声が収録されています。認知症デイサービスは「新しい自分に出会える場所」なのです。

尾道さつき会のホームページで動画を見ることができます。QRコードを読み取ってご覧ください。



ひとりひとりに
寄り添い
向き合っ
ていきま

広島大学の学生がデザイン

特別養護老人ホーム星の里 村上 佳代

特養の談話スペースのデザインを広島大学で建築を学ぶ学生たちに行ってもらいました。調理スペースとの間仕切りは既存の波形を生かしながら高さを延ばしました。また、談話スペースとの境には柵を変則的に配置し、通路からの視線が気にならないよう工夫されています。ご家族や入所者の方にも大変好評です。



▲落ち着いたスペースを演出したデザイン

2019 どんぐり工房カレンダー 収支状況

収入 2,999,000円
支出 1,155,214円
収益 1,843,786円

2019 どんぐり工房カレンダーをご購入いただき、ありがとうございました。収益は全額、障害者施設で配分し、利用者さんの工賃として支給させていただきました。

寄付者一覧

(2019年1月～2019年4月・順不同・敬称略)

<寄付金> 小路浅夫 崎谷亘 鳥居康信 匿名希望
<寄付物品> 匿名希望

編集後記

初めて広報委員を担当します、H.Sです。最近、アロマテラピーにはまっています。アロマテラピーに使われるオイルには、リラックス効果や抗菌防カビ効果が期待できるそうです。雨が続くこの時期にこそ、生活に取り入れてみてはいかかでしょうか H.S

さつき

第65号
令和元年6月

SATSUKI



社会福祉法人
尾道さつき会

広島県尾道市久保町1786番地
TEL (0848) 37-7272
FAX (0848) 37-9610
http://www.satukikai.com
E-mail:hoshinosato@satukikai.com

韓国・フィリピンのあとは日本で勉強 ～専門学校初の留学生を受け入れ～

尾道福祉専門学校
重岡 秀和



▲同級生と意見を出し合うイムさん(右)

今年度、本校では留学生を受け入れました。韓国からこられた、林 炯辰(イムヒョンジン)さんです。

受け入れのきっかけは、イムさん本人からの1通のメールでした。福岡や大阪などいくつかの専門学校へ同様のメールを送ったそうですが、本校からの返信が一番早く、丁寧であったことが入学の決め手となったようです。

イムさんはこれまで、韓国の国立大学で会計学を学んだあと、フィリピンで英語を学ぶなど興味のあることに対する

学習意欲がとても高い方です。このメールの時点では、日本語にはまだ不安がありましたが、入学試験までの半年間で日本語を猛勉強し、日常会話程度は理解できるようになりました。

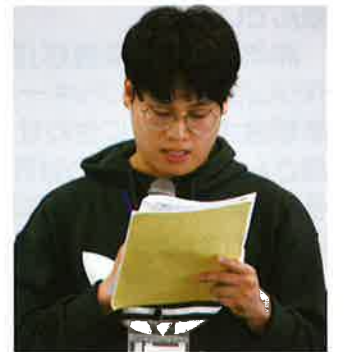
イムさんを受け入れるにあたり、私たちは住む場所を探すことや、入国に関する事など、すでに留学生受け入れをしている専門学校や日本語学校に相談しながら、初めての受け入れに戸惑いながらも準備を進めていきました。

入学試験も合格となり、受け入れ態勢は整えたつもりでも、いざ入学してみると、在留カードが届くのにかかる時間がかかり、その間の携帯電話などの契約が遅れたり、学則の見直しの必要性があったりと、細かな面で新たな課題が見えてきました。

日本語については、まだ、文法の理解が難しいようですが、電子辞書を使用して言葉を調べています。学校側も事前にプリントを渡し内容を見てもらうなどして対応しています。また、週に2回、「日本の文化と福祉」というタイトルで、日本語や文化についても補習を行っています。

幸い、他学生との関係も築けたようで、休憩時間に会話をする中で、自然と日本語を学んだり、授業で分からないことについても、教えてもらったりしているようです。

昨年に行われた全国教員研修会において介護福祉士養成施設協会の井之上副会長から、2014年度の入学生の内、留学生は17名(0.2%)だったのが、2018年度は、1,142名(16.7%)と、急増していると報告がありました。これは、EPA(経済連携協定)や、資格を取得した留学生への在留資格付与、技能実習、介護分野における特定技能の在留資格付与など、留学生を取り巻く環境が大きく変化していることが影響しています。これから、本校でも留学生の人数も増えてくること予想されますが、受け入れの環境を整えることはもちろん、学生の間で混乱が生じないよう、うまく橋渡しをしていけたらと思います。



▲意見を発表するイムさん

どきどきわくわく入園式 ～風船に願いをこめて～

児童発達支援センターあいあい 白川 仁美

4月4日、児童発達支援センターあいあい入園式が行われました。入園式日となり、今年度は18名の子どもたちが入園しました。

両親に付き添われながら登園した子どもたちは、初めての場所やたくさんの職員、友達に不安を隠せません。式が始まる前に部屋に入ることができず、涙が出てしまう子もいました。緊張していた子どもたちでしたが、絵本の読み聞かせや、あいあいでの活動写真を見ているうちに、少しずつ表情が和らぎ笑顔も浮かびました。



▲願いをこめた風船飛ばし



▲保護者代表の挨拶

式の最後には、「1年間、あいあいでも元気に楽しく過ごせますように…」と願いをこめて、みんなで風船を飛ばしました。新しい環境での生活にしっかりと第一歩を踏み出しました。

4月から新しい職員を迎え、あいあいはますますパワーアップしています。個性豊かな職員の視点や専門性を生かし、子どもたちが「もっとしたい!」と思えるような遊びと学びを提供します。今後も、子どもたちの笑顔がたくさん見られるよう、療育活動をしていきます。

尾道の玄関口でお出迎え ～駅舎でココさんのクッキーを販売～

すだちの家 河原 真理江

尾道駅舎の1階にある「おのまる商店」をご存知でしょうか。“地元のこだわり商品”をそろえた店内には、すだちの家が製造する「ココさんのクッキー」が並んでいます。

昨年、「おのまる商店」関係者の方から「丁寧に手作りした美味しいクッキー」と評価を受け、今年3月の新駅舎オープンに合わせて販売が決まりました。店員さんからは「とても好評です。観光客だけでなく、多くの駅の利用客に手に取っていただいています」と言われました。



▲観光客や利用客で賑わう尾道駅舎



▲地元のこだわり商品が並ぶ店内

ビート糖や良質の卵を使った「ココさんのクッキー」は、サクサク感と自然な甘さが特徴です。味もプレーン、チョコチップ、ショコラ、ごま、紅茶の5種類があり、それぞれの風味が楽しめます。中でもチョコチップクッキーはお子様から大人の方まで幅広い層で人気です。

尾道駅の他にもクロスロードみつぎや尾道ふれあいの里、公立みつぎ総合病院売店、尾道市民病院売店で販売しています。ひとつひとつ心を込めて手作りした、ココさんのクッキーをぜひお召し上がりください。

シリーズ JOY CHANGE たのしく転職 特別養護老人ホーム 星の里 島田 智恵美

Q1 前職は何をしていましたか。

飲食店の接客係、派遣会社の内勤や営業、富士山の売店で販売、混入異物の分析報告、事務、仕事をせずにはいられない、いろいろな仕事を経験する人生を選びました。

Q2 さつき会に入職した経緯を教えてください。

尾道にUターン後、ハローワークの職業訓練制度を利用し、尾道福祉専門学校に入学しました。介護に興味があったわけではないのですが、自分が関わることで利用者さんが嬉しそうなる表情が変わり、体を動かされる姿を目の当たりにし、面白い!!と、はまってしまいました。実習先の1つだったさつき会で、利用者さんとゆっくり個別に関わる職員の姿を見て「ここで働きたい」と思ったのが入社きっかけです。

Q3 前職の経験が生かされていることは。

無駄な経験はないので、パソコン業務、接客販売、営業、働かず何もしないという経験も、きっと全部生かされていると思います。あえて挙げるとしたら、どの職業を選択するかより、どう働かが大事だと分かったことでしょうか。



▲毎日楽しく笑顔で

Q4 働いてみてさつき会の良さは?!

今日も楽しんで頑張ろうと感じられる職場です。



▲利用者さんとゆっくりと
かかわります

500人以上の職員が障害、高齢、児童など各分野でさまざまな仕事をしてます。きっと自分に合う仕事がどこかにあり、一緒に頑張れる仲間がたくさんできると思います。

利用者さんの絵画が広島市の町を走る!

～市電の内装に採用～

尾道サンホーム 清水 佑美

尾道サンホームの湯谷誠さんが描いた絵が、広島市路面電車の内装の一部に採用され1月28日から2月17日までの期間限定で車内を彩りました。

いきさつは、湯谷さんの絵が「広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス」に入選したことです。

「アート・ルネッサンス」とは、障害のある人の作品を対象とし、広島市やNPO法人ひゅーるぽんが主催する作品展です。毎年開催され「全ての人々が自由に自分の思いを表現できること、そして、そのアートが笑顔を運び、沢山のひととその幸せを共有できる、そんな日常の風景が広島にあること。平和の『まち』と人が生むアートプログラムへとより一層高めていきたい」という願いが込められています。

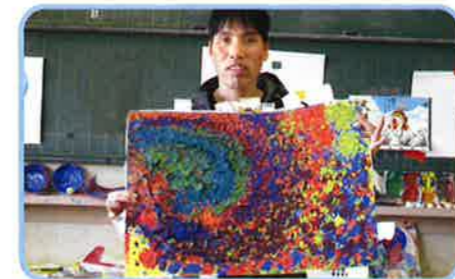
規模も全国的で、588作品中、入選は122作品という競争率です。湯谷さんは3回連続で入選し、さらにこの晴れ舞台も頂きました。

尾道サンホームでは「ありのままに自分を表現できる」ことを大切に、絵画活動に取り組んでいます。湯谷さんの作風は、竹串に絵の具を付け、ひたすら点を重ねていくというものです。完成した作品は平面とは思えない絵の具の盛り上がりや重量があります。

毎年、さつき会の利用者さんの絵を掲載したカレンダーを販売していますので、ご覧ください。



▲路面電車内の様子



▲入選した作品。タイトルは「ビッグバン」



▲絵画制作中の湯谷さん